

カタカナ50音順

【ア】

アーカイブ【archive】

記録保管所。もともとは、ファイルの整理や保管のために複数のファイルをひとつにまとめること。ファイルをまとめる際にデータ圧縮も行うため、ファイルの圧縮、及び圧縮したファイルを指す場合が多い。この作業に使うプログラムをアーカイバ（archiver）と呼び、圧縮機能や暗号化機能をもっている。複数のファイルをいちどにまとめて送ったり、ファイル容量を小さくすることによって通信時間を節約する目的で、インターネットやパソコン通信では頻繁に使用される。

アウトソーシング【Outsourcing】

直訳的には、「外部の供給源の活用」である。何をどのように供給してほしいのかによって、さまざまな形態をとって実現する。

一般的には企業活動で必要となる機能の一部を企業の外部で実現することを指し、日本語としては「外注」「外部委託」「戦略的提携」「分社化」など、さまざまな形があり得る。

インターネットの普及によって高機能な通信サービスが利用可能になったことと、コスト削減の圧力が高まったことなどにより、ますます重要性が高まっている。また、IDC(Internet Data Center)やASP(Application Service Provider)などの台頭により、これまで以上に利用しやすくなっている。

広義にとれば、企業活動を支えるインフラである電力や水道の供給も、一般的にはアウトソーシングで利用していると考えられるし、交通機関や通信サービスなどもそうである。

アクセス【access】

- (1)CPU がメモリや記憶装置に対してデータの書き込みや読み出しを行うこと。
- (2)電話回線やインターネットを通じ別の場所にあるコンピューターに接続す

ること。

アクセス権【access right】

あるオブジェクトを操作する場合に、これを参照するユーザーやプログラムに与えられる権利。

たとえばネットワーク環境で共有されるファイルは、セキュリティなどの理由から、特定のユーザーだけが読めるようにしたり、書き込みできるようにしたりする。この場合、そのファイルに対するアクセス権を持たないユーザーは、ファイル操作を行うことができない。

アプリケーション【application】

ワープロや表計算、データベースなどコンピューターを使って、文書や表、データベースを作るなど、それぞれの目的を実現するためのソフトのこと。アプリケーション・ソフトウェアというのを略した言い方。また、さらに略されて「アプリ」と略されて呼ばれることも多い。パソコンの基本的な機能を実現する基本ソフト「OS」や周辺機器を制御するソフト「ドライバ」、パソコンの細かな設定を変更する「ユーティリティ」などとアプリケーションは区別されている。

【イ】

イメージ【image】

画像のこと。ベクタイメージというとドローデータのことを指し、ラスタイメージというとビットマップデータのことを指す。

インストール【install】

ソフトウェアやハードウェアを使用できる状態にする操作。主にソフトウェアに対して使われる。ハードウェアでは、本体への接続やスイッチの設定を指し、ソフトウェアでは、フロッピーディスクやCD-ROM からハードディスクにコピーしたり、ソフトウェアの各種オプションを設定するなどの作業が含まれる。インストール作業が複雑なソフトウェアでは、専用のインストーラを用いるこ

とが多い。

インターネット【Internet】

インターネットとは、各地に散在するコンピュータネットワーク（LAN や WAN）同士を専用線によって接続した巨大なネットワークのこと。「ネットワークのネットワーク」と呼ばれることもある。もともとは冷戦時代に、アメリカ国防総省が北米地域の軍事施設や大学のコンピュータ同士を接続したのが始まり。分散型にしたのは、敵対国からの核攻撃に対応するためだった。本来は専用の回線がないとアクセスできないインターネットに、一般の電話回線からアクセスできるようにしたことで、爆発的に普及した。これを可能にしたのが、インターネット・サービス・プロバイダー（略されてプロバイダ）である。

インターネットデータセンター【Internet Data Center】

顧客のサーバーを預かり、インターネットへの接続（コネクティビティ）と、サーバーの運用、監視環境（ファシリティ）を提供するサービス、またはその施設。「IDC」と略され、サービスを提供する事業者を「IDC 事業者」という。

インターネットバンキング【Internet-Banking】

パソコンなどの端末からインターネットに接続して、振り込みや残高照会などができるサービス。原則 24 時間利用でき、ネットとつながったパソコンがあれば、自宅、会社、出先を問わずに利用できる。

日本では、住友銀行が 97 年 1 月から始めたのが最初。利用者にとっては、支店窓口や A T M コーナーの営業時間内にいく必要がなくなり、手数料も窓口利用に比べて安くすむメリットがある。

銀行へ申し込み後に郵送される I D とパスワードを入力して利用し、他人に利用されないよう確認番号を設けてセキュリティを高めている銀行もある。さらに、S S L と呼ばれる暗号化技術を採用してインターネット上での通信を保護することが標準となっている。

サービス内容も、基本的な振り込み、残高照会、利用明細照会から、外貨預金の開設、投資信託の購入、住所変更手続き、公共料金の自動支払いの申し込

みにまで広がっている。

インタラクティブ 【interactive】

ディスプレイの指示などに従って、ユーザーとコンピューターが対話的に処理を進めること。「interactive」には「相互作用の」という意味がある。

イントラネット 【intranet】

WWW（ワールド・ワイド・ウェブ）やTCP/IPなどの、インターネットで普及している技術を使って構築されたLANをイントラネットと呼ぶ。インターネットとの大きな違いは、社内だけとか限定されたネットワークの利用となっている点。WWWを使用してデータの検索や電子掲示板の利用などを行うことができるなど、その面では社内に作られたインターネットともいえる。すでに普及している技術を使用しているので比較的手間もかからず、クライアント側はインターネットブラウザだけで簡単にサービスを利用できるのが特徴。「イントラ（intra）」とは「内部の」という意味。さらに、個別のイントラネットシステムをインターネットを通じて結び、相互にデータ交換ができるようにしたシステムを「エクストラネット」という。

【オ】

オープンシステム 【Open System】

メーカーや機種の異なるコンピューターでの相互接続、操作が可能であるシステムをいう。

オブジェクト 【object】

操作対象のことをいい、対象の操作や手続きといった処理を含めたものをいう。

【カ】

カスタマイズ 【customize】

用途に応じて、標準構成の一部を変更すること。

【キ】

キーワード検索【retrieval by keyword】

データベースなどを検索する際に、各項目に対してあらかじめ設定されたキーワードを元に検索を行うこと、またはそれを実現するための機能。これに対し、あらかじめ設定された特定のキーワードだけでなく、データ内に含まれるすべての文字列から検索する方法はフルテキスト検索と呼ばれる。

キオスク【KIOSK Terminal】

キオスクは、もともと駅前などで新聞などを売る店舗を意味する言葉。現代のデジタルネットワーク時代では、むしろ、コンテンツ（情報の内容）を販売する場所という意味合いで使われる。

ギガ【Giga】

G（ギガ）とは、 10^9 乗＝10億のこと。 $1\text{G}=1000\text{M}$ （メガ）＝100万K（キロ）

【ク】

クライアント【client】

「client」は「依頼人」の意。

コンピューター関連では、一般に何らかのサービスを提供する側を「サーバー」、これに対しサービスを提供される側を「クライアント」と呼ぶ。

クライアント・サーバー【client server】

ソフトウェアやハードウェアのシステムを、処理の中核を実現する「サーバー」と、そのサーバーが提供するサービスを利用する「クライアント」に分けて実装するアプローチ。すべての機能を単一のソフトウェア／ハードウェアで

実現するアプローチと比べ、システムの階層化によって個々の機能が単純化し、システム開発や保守が容易になるとされている。特に1つのリソースを多数のユーザーが共有しなければならないような用途（ファイル共有やデータベースなど）は、リソースの管理を行うサーバープログラムとユーザーサイドで動作するクライアントプログラムに分けて実装するのが合理的なやり方となる。

クラッカー ハッカー

本来はコンピューターに非常に詳しくて、その操作に通じている人を指す。最近ではネットワークを通じてコンピューターに違法な侵入をしてデータを盗んだりする者を指すことが多い。このような犯罪行為をする者をクラッカーと呼びハッカーと区別することもある。

クラッド【Cladding】

光ファイバの構造の一部をさす。光ファイバは中心のコアとコアを囲むクラッドから構成される。材質は一般的に石英ガラスがプラスチックでできている。また、クラッドはコアよりも屈折率が1%ほど小さく、光をコアの内に安定に閉じ込めておく役割を果たす。

グループウェア【groupware】

コンピュータネットワークを利用して、複数の人間からなるグループでの情報共有、及びそれらの相互作用を円滑化するソフトウェアの総称。代表的なグループウェアの機能としては、電子会議室、ドキュメントデータベース、電子メール、ワークフロー管理、スケジュール管理などがある。

【コ】

コンテンツ【contents】

もともとは「内容」のこと。「マルチメディアコンテンツ」や「Web コンテンツ」という使い方をする。「Web コンテンツ」と言った場合には、インターネット上の Web サーバーに掲載されているテキストやグラフィックなどの内容を指す。

コンピューターウィルス＝ウイルス 【computer virus】

不特定多数のコンピューターに何らかの意図的な被害をもたらすために作られたプログラムをウイルスという。画面表示を変更するだけのいたずら程度の比較的被害の少ないものから、ハードディスク上のファイルを完全に破壊するようなものまで存在する。ウイルスには「トロイの木馬」や「ワーム」「マクロウイルス」など特徴や症状によって種類があり、最近ではこれらの複合型も増えて、世界各地で非常に多くの種類のウイルスが作られている。コンピューターがウイルスに冒されたときの状況を「感染」と呼ぶ。また、ウイルスの被害が起きたときのことを「発病」という。ウイルス対策ソフトによる定期的なウイルスチェックはもちろんのこと、発病の際には他のコンピューターにウイルスを撒き散らさないような配慮が必要。たとえば発病したパソコンでメールを送るなどは非常に危険。

【サ】

サーバー 【server】

「server」は「提供者」の意。コンピューター分野では、ある特定のサービスを提供するシステムやコンピューターを指す。サーバーによって提供されるサービスには、データベースサービスをはじめ、ファイルサービスやプリントサービスなどがある。サービスを提供する側のサーバーに対し、サービスを受けるシステムやコンピューターの側はクライアントと呼ばれる。

サイト 【site】

インターネットでサーバーのある場所のこと。通常はサーバーと同じ意味で使われる。

サイバー・テロ 【Cyber-terrorism】

重要インフラ（情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス）の基幹をなす重要な情報システムに対して行なわれる、情報通信ネットワークや情報システムを利用した電子的な攻撃。

産業や政府の活動の多くは、情報システムに依存するようになってきており、更に加速的な情報化・ネットワーク化の進展が見込まれている。重要インフラにおいても、電力供給、交通、電子政府等の国民生活や社会経済活動に不可欠なサービスの安定的供給や公共の安全の確保等に関する重要な役割を情報システムが果たすようになってきている。

【シ】

システムオペレータ【system operator】

システムオペレータ（一般）

広義では、何らかのシステムを操作する人という意味だが、狭義にはコンピュータネットワークシステムの管理者を指す。通常のネットワークユーザーは、そのネットワーク内において許された範囲内の行動しかできないが、シスオペはシステムの調整、整備などの任を負うため、一般ユーザーよりも高い一定の権限を与えられている場合が多い。

システムオペレータ（BBS）

商用 BBS では、フォーラム単位に管理者を置き、電子掲示板への書き込みやプログラムのアップロードなどを管理しているのが一般的である。こうした管理者をシステムオペレータ、または短縮して「シスオペ」などと呼ぶこともある。

【ス】

スキャナ【scanner】

スキャン動作によって絵（図形、イラスト、写真）や文字などの原稿を電氣的画像情報に変換する装置。点状や線状の受光素子を用いてこれを走査（スキャン）させることで面状原稿の光の部分々々の反射量や透過量を捉えることができる。読み取ることのできる原稿の種類や機構によっていくつかの方式がある。

スキル【skill】

業務作業における熟練、技量などのことをいう。

【セ】

セキュリティ【security】

「security」は「保障、保全」という意味。コンピューター関連でいうセキュリティは、許可されていない第三者からコンピューター内のデータや各種ネットワーク資源などを守ることを指す。

最も一般的なセキュリティの実現方法は、1人1人のユーザーに名前（ユーザー名）をつけ、本人しか知らない文字列をパスワードとしてユーザー名と対応づけてサーバーに記録しておき、ネットワークやデータファイルへのアクセスを許可する前に、ユーザー名とパスワードを入力させ、アクセスしている人物が登録された人物と一致するかどうかを検査する。パスワードは本人しか知らないなので、正しいユーザー名とパスワードの組が入力されれば、それは登録された本人であることが分かる（この作業は「認証」と呼ばれる）。

セキュリティポリシー【Security Policy】

組織内のセキュリティに関する基本的な方針や行動指針のこと。

特に企業などでインターネットを活用している場合、セキュリティに関して配慮する必要があるのはいうまでもない。ただし、セキュリティとはある一定の状態を指すものではなく、組織によって目指すところはまちまちである。つまり、何をどのような手段で守るべきか、それにどの程度のコスト（人的な要素も含む）を投じるべきかは、組織によってまったく異なるのが普通である。

ファイアウォールでも、どのようなパケットを通過させ、どのようなパケットを遮断するのかは、運用時に柔軟な設定が可能である。このとき、設定のよりどころとなるのがその組織のセキュリティポリシーである。どのようなネットワークアプリケーションの利用を許すかといったことから、組織内のユーザーをアクセス権限ごとにグループ分けするなど、セキュリティ対策にはさまざまなアプローチがあり、汎用的な正解というものはない。組織が必要とするネットワークの利用法や、組織内にあるリソースの量や質、そして業務内容にも影響を受けるからである。セキュリティポリシーは、こうした複雑な要素を総

合的に判断して策定される。そして、これに基づいてネットワーク環境を構成する個々の要素それぞれに適切な設定を行いながら、そのポリシーを維持、運用していく。もちろん、セキュリティポリシーは不変ではあり得ない。新しいネットワークアプリケーションの出現や、新たなセキュリティ侵害手法の登場などを受け、刻々変化し続けるものである。

【タ】

ダークファイバ 【Dark Fiber】

敷設されているものの、まだ使用されていない光ファイバのこと。「ダーク＝暗いファイバ」、すなわち未使用で光が通っていない状態のファイバを表わす。同様の用語として、敷設済みで使用されていないメタルケーブル（銅回線）を「ドライカップ」と呼ぶ。ダークファイバやドライカップは、回線の所有者が第三者の通信事業者に対してその使用を開放する／しないという文脈で使われることが多い。というのも、未使用のネットワークインフラの活用状況いかに、その国の通信環境を大きく影響するためである。

ダイアルアップ 【dial up】

公衆回線とモデムを使うなどして、離れた場所にあるコンピューターにログインしたり、その資源を使用したりすること。リモートアクセスなどともいう。

ダウンサイジング 【down-sizing 】

大型計算機など、従来は大規模なコンピュータシステムで行っていた処理を、小型のワークステーションやパーソナルコンピューターに置き換えていくこと。パーソナルコンピューターなどの小型コンピューターの性能が劇的に向上したことから、これが可能になった。

ダウンロード 【download 】

ネットワーク上で公開されたファイルを、ローカル（クライアント）のコンピューターに転送すること。

【テ】

データグラム指向【Data gram】

データを送受信する場合、送信データに対していちいち受信確認を行わない通信方法。確認処理を省いた分、プロトコル処理にかかる負荷は小さいが、確実に届いたかどうか分からないという欠点がある。

データベース【database】

複数のアプリケーションまたはユーザーによって共有されるデータの集合のこと。また、その管理システムを含める場合もある。

ディスク【disk】

コンピュータの補助記憶装置のひとつ。コンピュータの電源を切っても内容が消えない。プログラムやデータを保存するためのメディア（媒体）で、フロッピーディスク、ハードディスクなど多種多様な形態がある。

デジタルデバイド【digital-divide】

情報格差・差別

デジタル技術（いわゆる IT）の普及に伴い、それを使いこなせるかどうかで二極化が起こった状態。社会問題として認識されつつあり、この問題を端的に「デジタルデバイド」と呼ぶ。

こうした問題はいつの世にもあるもので、自動車運転免許を持っているかどうか、英会話ができるかどうか、いろいろな基準をたてることが可能である。しかし、IT 関連でデジタルデバイドという言葉が注目されている背景には、この技術が今後社会生活のあらゆる面を劇的に改革していくという予測（あるいは期待）があるためと考えられる。

現在のデジタルデバイドには、「PC を所有できるかどうか」という所得格差が背景にあると考えられるため、社会問題として認識されている面もある。

デファクトスタンダード【de facto standard】

業界標準。明文化された規格はないが、特定製品が広く普及し、事実上の業

界標準となったもの。

【ト】

ドキュメント 【documents】

一般的には説明、解説、報告などの目的で作成された文書。使用説明書のことを指す場合が多い。

ドット 【dot】

文字や絵を構成する小さな点の集まり。コンピューターの画面やインクジェットプリンタの出力は、ドットで構成されている。モノクロ表示の画面では、白と黒のドットしか使わないが、カラーでは色の情報をもったドット（正確にはピクセル）を使う。ドットが小さいほど単位面積あたりのドット数が増え、細かな文字や絵を表現できる。ディスプレイ、スキャナといった連続階調の機器の場合は画素とドットでは1対1で対応するが、インクジェットプリンタ等の面積階調の機器では1画素に対して複数ドットの対応となる。

ドメイン 【domain】

「領地」という意味で、コンピューター関連では、主にネットワーク環境におけるひとまとまりの管理単位などを表わす。

ドロー 【Draw】

グラフィックの表現方法のひとつ。グラフィックを直線や曲線の方向や長さのデータとして扱う。データが数値で表現されるので、ドットにくらべて正確な描画が可能。滑らかな曲線を描いたり、図形を変形するのに向いている。【参】ペイント

【ノ】

ノード 【node】

ネットワークに接続されている端末やネットワーク機器のこと。

【ハ】

バージョンアップ【version up】

ハードウェアやソフトウェアが世代交代され、新しい製品が発表されること。一般にこのバージョンアップでは、旧世代の仕様のすべて、または一部が継承され、新世代製品に引き継がれる。

ソフトウェアでは、旧バージョンのユーザーに対して、安価に新バージョンを購入できるようにするバージョンアップサービスが行なわれるのが一般的である。

ハードディスク【hard disk】

磁性体を塗った金属の円盤にデータを読み書きする記録装置。フロッピーディスクなど、ほかの記録メディアと比べ大容量で高速アクセスが可能である。

パスワード【password】

コンピュータシステムの認証を受ける際、ユーザー名とともに入力する文字列。パスワードは特定のユーザー（ユーザー名で識別される人）しか知らないもので、これが正しく入力されれば、アクセスしているのがそのユーザー本人であることを認証できる。

ハッキング【Hacking】

専門的な知識を持ったコンピュータ・マニアや愉快犯的な行為のこと。システム破壊や情報の改ざん等、実害の発生するところまでは行わない意味で用いられる。

バックアップ【backup】

プログラムやデータなどのファイルを、別の記録メディアにコピーして保存すること、また保存したもの。元のファイルを入れたディスクが壊れても、コピーしたファイルが残る。市販のバックアップ用ソフトウェアを用いれば、内

容を変更したファイルだけを追加コピーできる。

転じて、非常用の予備を容易すること。（例：バックアップ電源）

バックボーン 【backbone】

インターネット上でネットワークとネットワークを結んでいる高速、大容量の回線。

バリアフリー 【Barrier Free】

障害のある人が社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去するという意味で1974年（昭和49年）に国連障害者生活環境専門家会議が「バリアフリーデザイン」という報告書を出したところから、この言葉が使用されるようになった。もともとは建築用語として登場し、建物内の段差の解消等、物理的障壁の除去という意味合いが強いが、より広く障害のある人の社会参加を困難にしている社会的、制度的、心理的な全ての障害の除去という意味でも用いられている。

バンド幅 【bandwidth】

チャンネルが持つデータ転送の容量。 バンド幅の高いチャンネルほど、単位時間に大量の情報を転送することができる。10Mbytes/sec（1秒間に10Mbytesのデータ転送が行える）のように表わす。

【ヒ】

ピアリング 【peering】

インターネットで接続ポイントにそれぞれのサービスプロバイダー（ISP）が専用線をつないで相互にネットワークを利用しあうこと。

ピクセル 【pixel】

画素と同義。pix（pic＝写真の意の複数形）＋elementの造語。一般にはピクセルとドットが同義に使われているが、ドットと言った場合、本来は色や色

深度の情報は含まない「点」を意味する。したがってカラー画像の最小単位はドットではなくピクセルと称するのが正確。

ビット【bit】

Binary Digit を短縮して作られた語。2 進数 1 桁分の情報量。コンピュータで扱うデータの最小単位。8bit で 1byte（バイト）になる。

ビットマップ【Bit Map】

ピクセルにアドレスを付けてデータ管理をする方式。Macintosh では、ピクセルを組み合わせて表わした絵や文字も指す。

ビットレート【bit rate】

ビット速度と同じ意味で、デジタル回線で 1 秒間に伝送するデータのビット数、またはデジタル情報機器が 1 秒間に発生するデータのビット数をいう。

【フ】

ファイアウォール【firewall】

特定の組織内で使用されているネットワーク（LAN）は、多くの場合インターネットと接続していて、世界中のネットワークにアクセスできるようになっている。その場合、LAN とインターネットとの間に、ファイアウォールという防火扉のような働きをするパソコンを介して接続されている。LAN と世界中の人間がアクセスしているインターネットを直接つないでしまうと、インターネット上から LAN 内のデータに不正にアクセスされて重要なデータを操作されたりと、安全性の問題が発生する。ファイアウォールはそんなことがないように、LAN と外部のネットワーク（インターネット）の間に立ち、やりとりされるデータのすべてを規制して認められているプロトコルやデータ以外は通過できないようにする。

ブラウザ【browser】

データやファイルの中身を見るためのソフトの総称。データの編集はできないが、内容を一覧して確認できるようになっている。また「インターネットエ

クスプローラ」や「ネットスケープナビゲータ」といったウェブページ閲覧ソフトを単にブラウザと呼ぶことも多い。

プレゼンテーション=プレゼンテーションソフトウェア【presentation software】

会議などで企画意図を説明し、相手を説得するための作業をプレゼンテーションと呼び、そのためのデータを作成するソフト。アイディアの構築、プレゼンテーション用のスライドや OHP シートなどの作成だけでなく、発表者用の手元資料や参加者への配布資料作成まで行えるものもある。

ブロードバンド【Broadband】

一般に「ブロードバンド (broad=広い band=帯域)」という言葉は、ADSL やケーブル TV によるインターネット接続などの“高速なインターネット接続サービス”を指す。

インターネットだけではなく、有線や無線での通信や放送一般は、一定の帯域(バンド幅)を使って必要な情報のやりとりを行っている。信号を送るのに利用する搬送波や信号の帯域が広ければ広いほど、より多くの情報を同じ時間内に送ることができる。

インターネットの場合、すべてのデータはデジタル信号に変換され、TCP/IP という取り決め(プロトコル)によって、無線や有線などの物理的な通信手段を使って送られている。これらの通信手段で通信中に占有している帯域が広ければ、同じ時間内に送れる情報が増える。結果として、その上で実現される TCP/IP での通信も、より高速化されるようになる(同じ時間内により多くのデータを伝達できる)。

もともと音声を通すだけの狭い帯域に限定されているため、アナログの電話回線でのダイヤルアップによるインターネット接続は、せいぜい 28.8~56Kbps 程度の通信速度しか出ない。一時期持てはやされた ISDN も、一般的に使われている NTT の INS ネット 64 というサービスでは 64Kbps~128Kbps である。

一方、ADSL やケーブル TV、光ファイバーによるインターネット接続サービスは、512Kbps~数 Mbps のより高速な通信が可能となっている。

128Kbps 程度ではTV や VHS クオリティのビデオ信号をリアルタイムに伝送することは困難であったが、ブロードバンドであれば映像などの伝送も十分実用的になるなど、インターネットや PC の利用方法がますます広がる可能性を秘めているといえる。

ただし、通信速度を数値的に見て、ここからがブロードバンドであるという明確な線引きがあるわけではない。今日の「ブロードバンド」が、明日の「ナローバンド (narrow=狭い band=帯域)」になるかもしれないとも言える。また、こうしたブロードバンドのサービスの多くは、「常時接続」で「一定料金」という点で注目されていることもポイントであろう。

プロトコル 【protocol】

コンピューター同士のデータ通信の際の規約、約束事。インターネットでは「TCP/IP (ティーシーピーアイピー、Transmission Control Protocol/Internet Protocol)」というプロトコルが基盤になっており、そのうえでさらに「http」や「ftp」などの用途別のプロトコルにしたがって情報の送受信が行われている。

【〜】

ベストエフォート型 【best effort】

ネットワークにおいて、あるサービスのタイプが保証されない通信形態のこと。ネットワーク網全体としては最善を尽くすように努力するが、エンド・トゥ・エンドで見ると、サービスの保証がなく、最悪の場合はまったくサービスが受けられないこともある。

保証するサービスのタイプとしては、送信したデータパケットが確実に相手に届くかどうかとか、ある値以上の通信帯域幅が常に確保できるかどうか、送信したパケットがある決められた時間以内に相手に届くかどうか、優先度の高いパケットが、その他のパケットよりも先に相手に届くかどうか、信頼性、セキュリティなどがある。通信の品質は低い、その分安価に実現することができる。

たとえば、Ethernet や Internet は典型的なベストエフォート型の通信シス

テムであり、通信するノードやトラフィックが増えてくると、パケットの消失や遅延、(実質的な)通信帯域の低下などが起こる。

【ホ】

ポータルサイト 【portal site】

インターネットに接続したとき、Web ブラウザで最初に表示してもらうことを目的に作られている Web サイトのこと。ポータル (portal) とは、堂々とした門、入り口などの意。そのページが、各種のサービスなど、インターネット自体への入り口になっている場合を言う。

ホームページ 【homepage】

Internet の WWW サービスにおいて、あるサイトあるいはひとまとまりのコンテンツを代表する Web ページ。通常はそのサイトのトップページやコンテンツの目次ページがホームページになる。

ホストマシン=ホストコンピュータ 【host computer】

広義には、ネットワーク環境において、サービスを提供する側のコンピューター。典型的な例としては、高速な演算処理サービス、データベースサービスを提供するコンピューターなどの総称として用いられる。

ただしワークステーションや高性能 PC を利用した水平分散システムでは、サービスを提供するコンピューターは一般にサーバーと呼ばれ、ホストコンピュータとは呼ばない。このため「ホストコンピュータ」と言う場合には、垂直分散システムにおける汎用大型コンピューターなどを指すことが多い。この意味でパソコン通信におけるセンターのコンピューターは「ホスト」と呼ばれる。

【マ】

マークアップ言語 【markup language】

文字列のキャラクタコード以外のさまざまな属性情報 (文字のタイプ (イタリックか、ボールドか、など) や組版情報、ハイパーリンク情報) などを、あ

らかじめ定義されたコマンドとして、文書中に記述していく方式の言語。

代表的なマークアップ言語としては、TeX や HTML、SGML などがある。

マニュアル【manual】

主にソフトウェアの取扱説明書。インストールの方法やトラブル時の対策について書いてあるものもある。

マルチペイメントネットワーク【Multi Payment Network】

電気やガスなどの公共料金や地方税、年金などの払い込みを、電話やインターネットなどを通じて 24 時間支払い可能とするシステム。大手銀行や公共料金を収納する企業、関連府省庁が協議会を設立、2002 年 4 月からの全面的サービス開始を準備中。主な提供サービスとしては、金融機関等の窓口の他、ATM、電話、携帯電話、パソコン等の各種チャネルを利用し公共料金の支払いができる収納サービス、収納企業と金融機関間の口座振替データの授受をデータ伝送で行う口座振替データ伝送サービス、収納企業から利用者に郵送する請求情報をパソコンや携帯電話等を通じて通知する請求情報通知サービス、利用者が ATM やパソコン等を通じて口座振替契約（新規、変更）を行うことができる口座振替受付サービスなどが予定されている。

e-Japan の行政サービスにおいて、行政諸手続の手数料の支払いや税収納等のひとつの有力な手段として、乗り入れが予定されている。

【メ】

メールアカウント【mail account】

電子メールを送受するための個人情報や権限。

メールアドレス【mail address】

インターネットメールにおいて使用される住所のことで、「jouhou@mishima.co.jp」（このメールアドレスは架空のものです）のように@で前半のアカウント部分と、後半のドメイン部分とに区切られている。アカウントはメールサーバーが利用者を区別するために使用され、この場合 jouhou の

部分がアカウントにあたる。ドメインはインターネット上の住所にあたる部分で、mishima はサーバー名、co はそれぞれ会社などの運営する団体の属性を、jp は国名を表している。前記のメールアドレスなら「日本にある会社の運営する mishima というサーバーの jouhou という I D」となる。運営する団体の属性はほかに or（会社以外の組織）、ne（ネットワーク関連の団体）などがある。メールアドレスを見れば、その人がどこのメールサーバーを利用しているかがわかる。一般ユーザーはこのドメインを持つサーバーにアクセスして、そこからインターネットに接続する。

メールマガジン 【mail magazine】

各種情報を定期的に電子メールの形で配信するサービス。大半が無料で配信されているが、有料のものもある。コンピューター系の情報を中心にしたものから、映画、本などを扱ったものまでさまざまなメールマガジンが発行されている。

メインフレーム 【mainframe】

高速、大容量のコンピューターの総称。個人レベルでの所有を基本とするパーソナルコンピューターに対し、複数のクライアントコンピュータからの要求を集中的に処理する大型コンピューターなどを指す。

【ユ】

ユニバーサルアクセス 【universal access】

情報化を進めるに当たり、年齢、性別、身体、国籍など、人々がもつさまざまな特性や違いを超えて、はじめから、できるだけすべての人が取得しやすい、すべての人に配慮した、情報提供の方法・手段を準備・採用していこうとする考え方をいう。

操作環境のバリアフリーに関する意識を高めたり、パソコンによらないアクセスを可能とするよう努めることで、デジタルデバイドの解消を実現していく。

【ラ】

ライセンス 【license】

許諾契約のこと。とくにソフトウェアを使用する際は、ユーザーはソフトウェア使用許諾契約というライセンスに従う義務がある。一般に、ライセンスに同意しない場合は、そのソフトウェアを使用することができない。利用できるコンピューターの台数、ユーザー数やネットワークでの利用制限など、さまざまな取り決めがある。企業や学校など複数の同じソフトウェアを導入する場合はサイトライセンスという形態をとることにより、ソフトウェアを大量に購入する手間や費用を軽減することができる。

ラストワンマイル 【Last One Mile】

最寄りの電話局（収容局）や ISP からユーザー宅までの接続回線のこと。Web サーバー側から見て「最後の 1 マイル」という意味だが、ユーザー側から見て「ファーストワンマイル」と表現されることもある。

日本でも ISP やインターネットデータセンターのピアリングなどによってバックボーン的高速化は進んでいるが、ラストワンマイルが依然として低速で高価であることが問題になっており、そのことを言及する際に使われる用語である。

【リ】

リスク・マネジメント 【Risk Management】

危機管理。災害・事故などの緊急時に備えて、発生し得るリスクの「確認と分析」・「評価」・「制御方法の研究・確立」・「発生後の対策」を事前に総合的に行うこと。

リソース 【resource】

資源。

リテラシー 【literacy】

対応能力

読み書きの能力のこと。転じて、特定の分野に関する知識やそこで発揮できる能力を指す。

【ル】

ルータ【router】

異なるネットワーク同士を相互接続するネットワーク機器。通信経路が記述されたルーティングテーブルに従って、データを宛先のネットワークまで中継する。OSI 参照モデルのネットワーク層以上で動作するため、ネットワークプロトコルに動作が依存する。

【ワ】

ワンストップサービス【One-stop Serves】

1つの窓口で関連する行政手続きすべてが行えるようにするサービス形態。行政サービスは中央府省庁、地方公共団体、政府関係機関等の様々な組織に分散しており、ワンストップサービスを実現するためには、これら分散した行政サービスを連携させることが必要となる。

行政機関への申請・届出等の手続きに際し、複数窓口や複数回訪れることが必要なものについて、オンライン化によりその箇所や回数を減らし、さらには一箇所または一回で各種の行政サービスを提供できるようにすることにより、申請・届出等手続きに係る国民や企業の負担を軽減し、利便性の飛躍的向上、と官民双方の事務処理の簡素化・効率化を図ることを目的とする。

ワン・トゥ・ワン【One-to-One】

顧客が望んでいるサービスや関連する情報を的確に提示することにより、顧客一人一人のニーズに応え、提供するサービスに対する満足度を向上させようとする概念。顧客の囲い込みと満足度の向上を実現するために用いられるマーケティング手法の1つであり、消費者を1つの「大衆」として扱う「マスマーケティング」との対比として用いられる「ワン・トゥ・ワン マーケティング」で実現されつつある。顧客の属性、購買履歴、行動履歴などを収集・分析する必要があるが、現実世界での人手に頼った作業と異なり、ECではコンピューターにより多くの作業が自動化されている。

漢字50音順

【い】

一般競争入札

業者を公正に選び適正な価格を維持するために、業者の数を限定せずに競争で入札契約すること。

【か】

霞ヶ関 WAN

府省庁間ネットワーク。各府省庁、付属機関、特殊法人、地方行政部局等行政に関わる組織機関を通信ネットワークでつなぐもの。府省庁間での電子メール、電子公文書交換システムをはじめ、情報データベースの共有、国民へのサービス業務の情報化等を推進する「行政情報化推進共通実施計画（1999年改）」の一環として創設され、拡大を続けている。なお組織機関の間の通信送受は、転送装置の終端に搭載されたデータ暗号化ボードにより暗号化されて行われている。

【し】

指名競争入札

国や自治体が、指名を希望する業者を技術力や経営規模などでランク付けのうえ登録し、発注の際はここの中から事業に適した複数の業者を指名、競争入札するもの。

しかしこの制度が汚職や談合の温床となっているとの認識から、政府は1994（平成6）年度から大規模な公共工事に一般競争入札を順次導入することとした。外国企業の参入も可能となる。一方、公正取引委員会は独占禁止法違反となる行為の目安を示すべく、「公共入札の指針」を出して談合予防を試みている。

会計法・地方自治法では、国や地方自治体が事業を発注する場合、業者を公正に選び適正な価格を維持するために、一般競争入札が原則とされているが、事務処理が煩雑になるため、実際には建設省など各省庁や都道府県のほとんどで指名競争入札が行われている。

条件付一般競争入札

施工実績や他の適切な条件を付して公募することにより、条件を満足する企業は全て入札に参加させる方式の一般競争入札。

【て】

電子メール

コンピュータのネットワークを通じて、ユーザー同士が手紙のように文書やデータ、画像をやりとりする手段の総称。パソコン通信やインターネット、社内ネットワークなどでそれぞれ独自のシステムで運用されていたが、最近では異なったシステム間でもメールをやりとりできる。「Eメール」や単純に「メール」などとも呼ばれている。とくにインターネットを使ったメールをインターネットメールということもある。また、電子メールソフトのことを「メーラー」ともいう。

【ひ】

光ファイバ 【optical fiber】

石英でできた高屈折率のコア＝芯（直径 50～60 ミクロン程度）を低屈折率のクラッド層で包んだ 2 重構造の光伝送用の線材。実際にはその外側にさらに保護用の被覆が施されている。半導体レーザーや LED を光源にして、コア部分に照射／注入すると、屈折率の違いから、ファイバを曲げても、光はコア部分の中だけを伝わっていく。コアとクラッドの間で全反射をするので、光が外へ漏れない。遠くまでほとんど減衰せずに信号を伝達することができ（数 10Km から数 100Km まで中継なしに伝達可）、電磁波の影響を受けない、伝送ビットレートが高速であるという特徴がある。現在は数 10Mbps～数 100Mbps の伝送速度を持つが、最近では Gbit（ギガビット）クラスの転送技術も開発されつつある。